

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 八幡 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

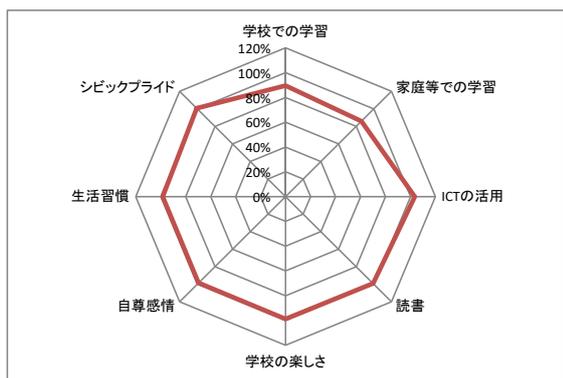
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均をやや上回っている。特に「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の領域で大きく上回っている。「情報の扱い方に関する事項」については課題がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる問題	
	努力が必要な問題	原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題	

算数	全体的な傾向や特徴など	全国平均をやや下回っている。「データの活用」領域の割合やグラフを活用したような問題においては、全国平均とほとんど差がなくできている。「図形」や「変化と関係」については全国平均よりもやや下回る。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
・「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の質問に肯定的な回答が98%。	
「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた」という質問が全国平均を大きく上回っている。	
・「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問は全国平均をやや下回っている。	
・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」という質問は全国平均を下回っている。	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・学習中に友達との話し合い活動を通して、自分の考えを広げたり深めたりすることができるよう、学年の発達段階に応じた、よりよい授業に努める。また、ICTの有効的な活用をさらに進めていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・学校では、家庭学習の具体的な方法を指導したり、自主学習を学校で教師が評価し、モデルとなるノートを掲示したりすることで、児童の意欲の向上を図るようにする。学校だよりや学年通信等で、保護者へ啓発する。